

PRESS
RELEASE

太陽 ASG グループ

第6回「中堅企業経営者「景況感」意識調査」～世界34カ国同時調査～を発表

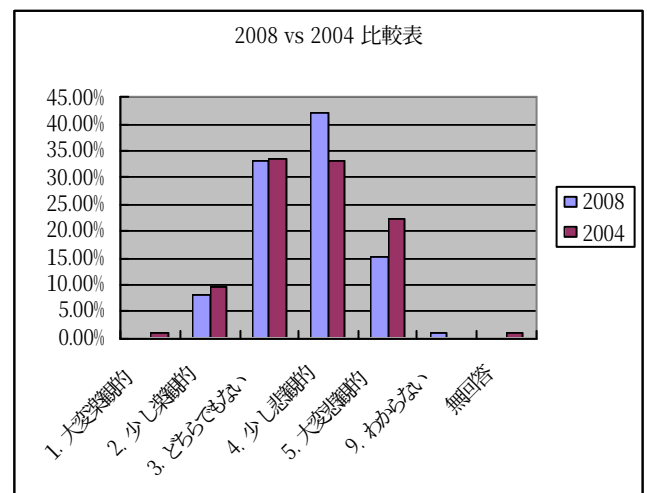
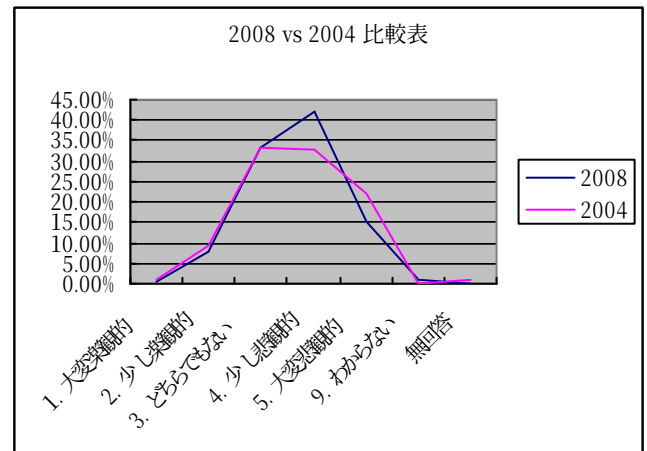
- 要旨
- ・ 2008年 DI 再び悪化－44
 - ・ 総論に不安、自社は積極的見通し
 - ・ 各国景況感はサブプライム問題の影響小、中国はピークアウト

		2008	対前年	主理由%
	フィリピン	95%	+7%	経済 45%
	インド	95%	-2%	経済 60%
	ベトナム	87%	—	経済 63%
	シンガポール	84%	±0%	経済 92%
	香港	82%	+13%	経済 81%
	ポーランド	78%	+36%	経済 75%
	ニュージーランド	77%	+15%	経済 50%
	中国	77%	-9%	—
	南アフリカ	75%	+1%	経済 83%
	デンマーク	74%	—	金融 95%
	ブラジル	70%	+23%	—
	オランダ	70%	-16%	経済 89%
	ドイツ	67%	+1%	経済 81%
	ボツワナ	66%	+25%	経済 74%
	メキシコ	62%	±0%	経済 32%
	アルメニア	61%	+4%	経済 61%
	スウェーデン	61%	-6%	経済 77%
	ロシア	58%	+1%	経済 64%
	カナダ	42%	-18%	経済 76%
	マレーシア	38%	-3%	経済 80%
	アルゼンチン	38%	-30%	経済 63%
	フランス	36%	+6%	経済 59%
	ニュージーランド	30%	-12%	経済 77%
	トルコ	28%	+28%	経済 63%
	ベルギー	26%	—	—
	米国	22%	+8%	経済 73%
	ギリシャ	22%	-5%	経済 70%
	アイルランド	17%	-65%	経済 81%
	英国	14%	-29%	経済 70%
	スペイン	1%	-42%	—
	イタリア	0%	-21%	経済 73%
	台湾	-9%	-6%	政治 81%
	タイ	-30%	-60%	インフレ 99%
	日本	-44%	-39%	経済 73%

太陽 ASG グループ（グラント・ソントン加盟事務所）は、2007年10月～11月にかけて実施した非公開企業を中心とする中堅企業経営者の意識調査の結果を公表した（従業員数 100人～750人）。この調査は、グラント・ソントン加盟主要 34カ国が実施する世界同時調査の一環である。

景況感

2008年景況感は、－44に後退し、2004年と同レベルに低下、日本の景況感は、本調査開始以来、6年連続最下位となった。DI指数では2004年に逆戻りした観もあるが、2004年と比べ「大変悲観的」が大幅に減少、「少し悲観的」がピークをなしており、改善が見られる。



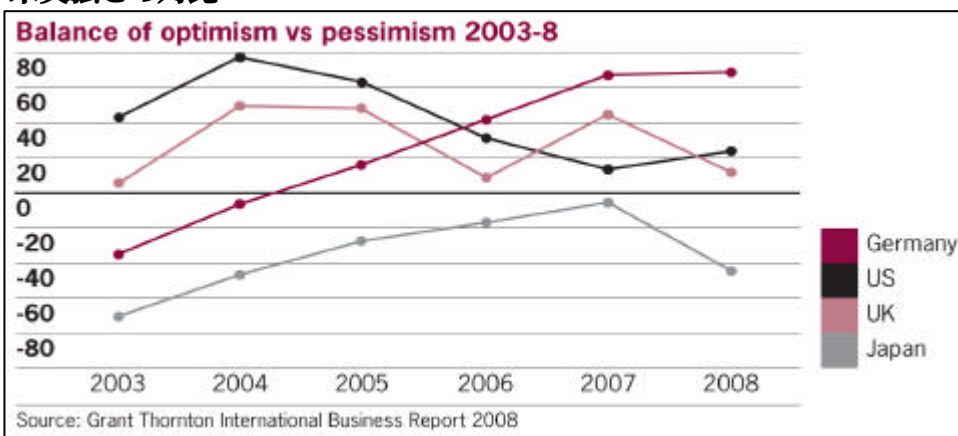
調査各国の景況感数値を見る限り、米国のサブプライム問題の影は余りない。日本の悲観予測の要因としては、一に景気全般、二に政治問題が上げられている。大きなマイナスを出した原因は、ベアな精神土壌に加えて、目下のわが国を牽引している対米、対中取引の依存度が高い経済に対して、調査期間中の急激な円高、中国の金融引締めその他経済減速の予兆、サブプライム問題に端を発する米国の金融混乱、消費停滞のおそれなどが複合した結果と見られる。

国際比較

アジア3国 日本・台湾・タイの低迷

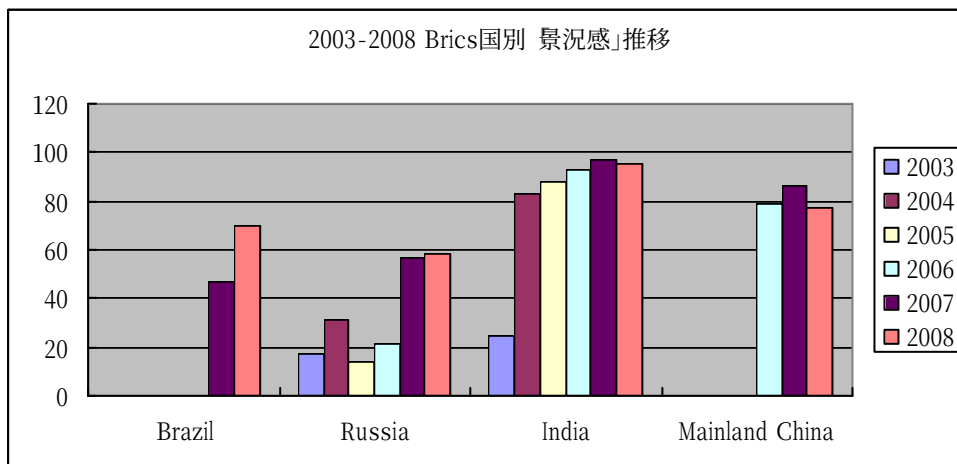
各国の比較では、好調を持続するアジア各国の中で、アジア（日本、台湾、タイ）3国が下位1～3位である。景況感マイナスの主因として、わが国が景気全般を第一の理由としているのに対して、台湾は政治情勢、タイではインフレが理由の第一位とそれぞれが異なる要因をあげている。

米英独との対比



G7国の代表例として、米英独3国と比較すると上記のとおりである。米国のサブプライム問題は、米国、ドイツでは、景況感に余り影響していない。

Bricsの状況



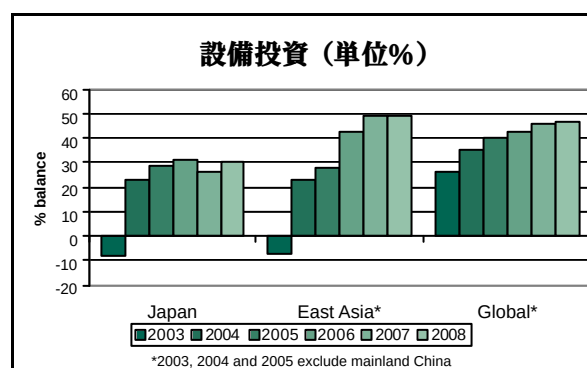
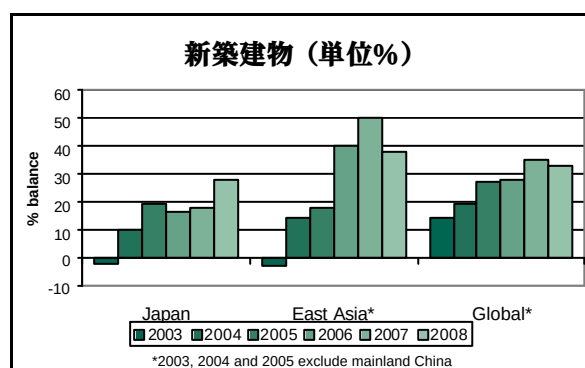
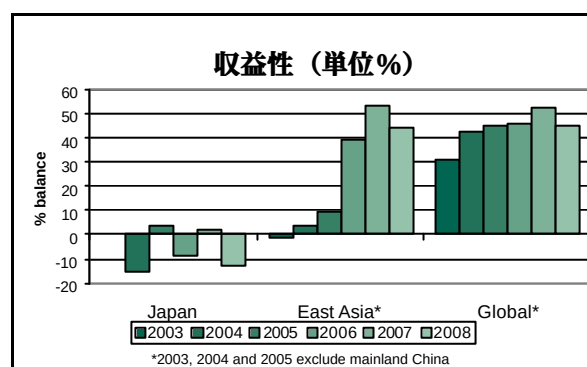
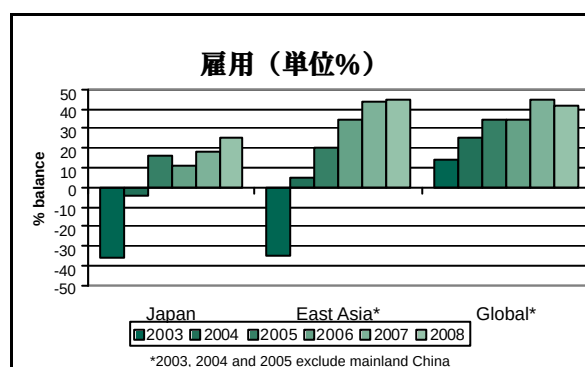
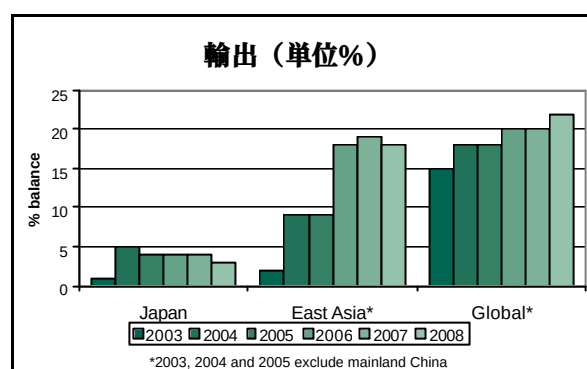
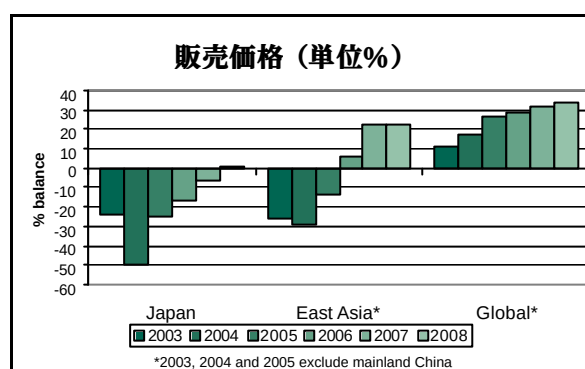
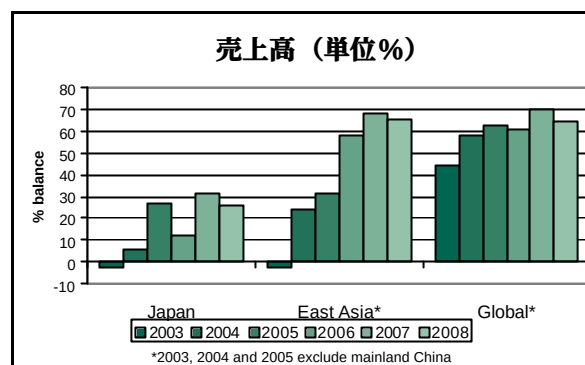
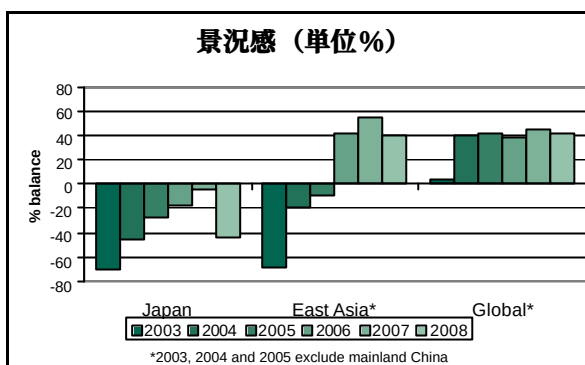
ブラジルを除き、Brics各国の景況感は頭打ちである。北京五輪を控える中国では、やや減速感が見られる。

自社の事業予測

積極的、減速感なし

雇用、新築建物着工で過去最高の水準を示している他、設備投資でも前年より増加。販売価格では、初めて僅かながらのプラス見通しを示し、利益でもプラス予測となっており、自社に関しても全面的に弱気見通しであった時期から見ると、脱却の兆しが十分覗える。

今後1年の自社の見通し（日本） 単位：％

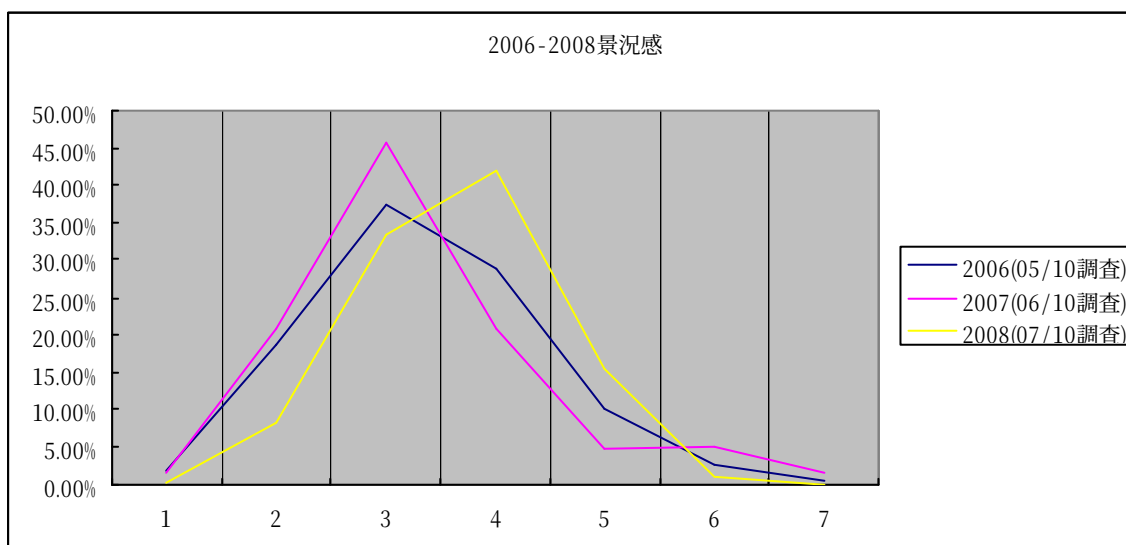
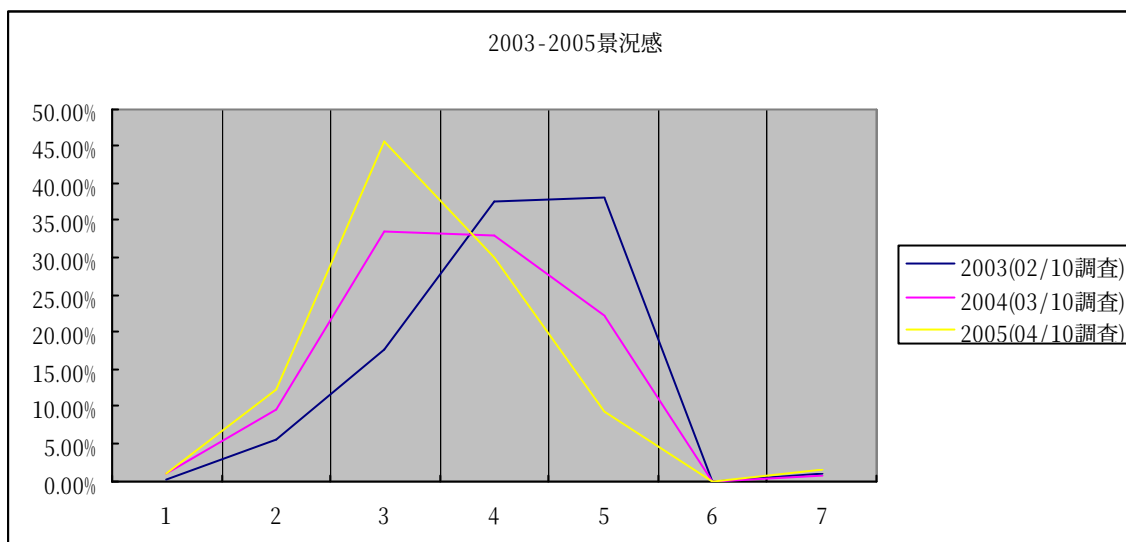


数値は各項目について（楽観的と答えた人のパーセンテージ）－（悲観的と答えた人のパーセンテージ）

Source: Grant Thornton International Business Report 2003-2008

2003 年以来の流れ

2003 年から 2004 年にかけて、グラフが強気の方へシフトした。2005 年以降「3. どちらでもない」がグラフ上のピークとなっていたが、2008 年予測ではピークがやや弱気にシフトし、全体として大幅なマイナス景況感となった。



第6回「中堅企業経営者の意識調査」コメント

日本大学法学部教授
稲葉 陽二

相変わらず日本のオーナー経営者の悲観度が際立っているが、これは日本の景気回復の跛行性を反映しているのではないかと。現在の景気回復は基本的には円安による輸出増によるもので、輸出産業は良かったが、輸出に関連しない企業の業績はそれほど良いわけではない。2007年度の経済財政白書には、業態別の対売上高経常利益率の推移を示した表が掲載されているが、これを見ると製造業の大企業・中堅企業の対売上高経常利益率は大幅に改善したが、非製造業の中小企業の利益率はほとんど回復しておらず、両者の差は大企業と中小企業の格差、いわゆる2重構造が問題となった1960年代以来の大差になっている。

また、輸出産業は良いといっても、やはり大企業のほうが、中小・中堅よりも早く業績が回復した。しかも、輸出回復は、中国を中心としたアジアやその他の新興国主導であり、経営者としては慎重にならざるを得ない。頼みの円安も日銀・政府間の阿吽の呼吸による成果であり、実効為替レートでみれば308円／ドルだった1970年代初頭の水準であり、いつ円高に転じるかわからない。とりあえず、経営者として設備投資と研究開発投資を着実に実施して足腰をしっかりさせておこうという対応ではないか。

稲葉 陽二（いなば ようじ）
日本大学法学部教授 1949年（昭和24年）生まれ
京都大学経済学部卒業
スタンフォード大学経営大学院修了（MBA）

OECD/IEA Principle Administrator, (財)日本経済研究所常務理事、電気事業審議会専門委員、日本政策投資銀行（Development Bank of Japan）設備投資研究所長などを経て、2003年4月より日本大学法学部教授（日本経済論担当）
独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構技術委員（研究評価委員会委員）

著書に『ソーシャル・キャピタル』（社会経済生産性本部）『日本の潜在成長力』（共著）（日経）、『「中流」が消えるアメリカ』（日経）、『よいリストラ悪いリストラ』（日経）、『日本経済と信頼の経済学』（共編著）（東洋経済）、『委員会等設置会社・重要財産委員会導入の実務』（共編）（中央経済社）、『社会投資ファンド』（一部共著）（有斐閣）など

中堅企業経営者の意識調査ー概要

実施期間： 2007 年 10 月 25 日～11 月 12 日

参加国数： 34 ヶ国

調査対象： 7200 名の世界の中規模・大規模の公開企業ビジネスリーダー、または経営トップ

調査実施会社： 日本では株式会社日経リサーチが日本国内における調査を実施。34 カ国同時調査の一貫性保持のため、国際的な調査会社である Experian Business Strategies Limited が取りまとめを行った。

調査方法： 日経リサーチ社所有の事業所データベースから、従業員数 100～750 人の全国の中堅・中小企業をランダムに 5000 社抽出し、郵送によるアンケート調査を実施。

分析手法： バランス統計手法 DI (Diffusion Index) :
景気判断 DI「良い」との回答比率から「悪い」との回答比率を引いた指数

本リリース中の数値は、各項目について（楽観的と答えた人のパーセンテージ）－（悲観的と答えた人のパーセンテージ）

グラント・ソントン インターナショナルでは「中堅企業経営者の意識調査」の回答 1 件につき、5US ドルをユニセフ (unicef) に寄付しています。昨年 (2007 年度) 調査の寄付金は 35,000US ドル。2008 年度調査の寄付金は 39,000US ドルを上回る予定です。

太陽 ASG グループ (グラント・ソントン加盟事務所)

所在地： 東京都港区赤坂 8-5-26 赤坂 DS ビル 9F

代表： 本田親彦 (公認会計士)

グループ会社： 太陽 ASG 監査法人、ASG 税理士法人、ASG マネジメント株式会社、
ASG アドバイザーズ株式会社

U R L： www.gtjapan.com

太陽 ASG グループは、世界 110 カ国、520 箇所以上の拠点をネットする国際会計事務所「グラント・ソントン」の加盟事務所です。2006 年 1 月 1 日付太陽監査法人と ASG 監査法人が合併し、新たに太陽 ASG グループを構成しました。国際水準の監査の他、オーナー系企業・中堅企業への各種業務・コンサルティングサービスの提供についてはトップクラスの実績を誇ります。

＜太陽 ASG グループが提供する事業領域＞

監査・保証業務、IPO、内部統制、公益法人・財団法人、アドバイザリサービス、税務戦略・税務サービス、国際税務、企業評価・事業評価、M&A・コーポレートファイナンス、ファミリービジネス・事業承継、外資系企業サービス、財務業務管理システム

グラント・ソントン

グラント・ソントンは世界第 6 位にランクされるグローバルな会計事務所グループであり、オーナー企業および独立系企業を中心に監査、税務、その他会計コンサルティングサービスを提供しています。世界 110 カ国、520 箇所以上の拠点、2200 名のパートナー、22,000 人の従業員を擁します。各グラント・ソントンの拠点は、全世界で共通の高品質なサービスの提供にコミットしており、クライアントの全世界あらゆる場所におけるビジネスの展開をサポートします。

日本では太陽 ASG グループ (太陽 ASG 監査法人、ASG 税理士法人、ASG マネジメント株式会社、ASG アドバイザーズ株式会社) が、グラント・ソントンの日本メンバーとして世界水準を導入した会計コンサルティングサービスを提供しています。

本件に対する問い合わせ先

太陽 ASG グループ マーケティング・コミュニケーション 担当マネージャー 田代知子

TEL: 03-5770-8860 (直通) FAX: 03-5770-8830

email: t-asgMC@gtjapan.com